

ついに完成！ ザンビアのマザーシェルター2棟目



妊婦さんが安心・安全な出産をむかえるためのマザーシェルターが7月に完成しました。

出産を避けていました。調査の結果、水・電気の供給不足に加え、出産待機場所がないことが診療所の満足度を下げていることがわかりました。診療所にマザーシェルターを併設することで、妊婦さんが陣痛前から滞在し診療所での出産に備えられるほか、万が一の際にも適切な処置を受けられる可能性が高まります。

ロシナンテスは産前健診から出産、産後の健診までを安心して受けられるよう、マザーシェルター内に左記のような設備を整えました。

- ◇ 出産待機室(宿泊できる部屋)
- ◇ 産後経過観察室
- ◇ 分娩室
- ◇ 職員の当直室
- ◇ 付添家族の宿泊室
- ◇ シャワー、トイレ
- ◇ 簡易調理場

診療所のベッドにはマットレスや枕、シーツなどが不足しており、妊婦さんが横になるには不十分だったため、これらの備品を補充しました。また、分娩室ではプライバシーを守るためにパーテーションを設置し、老朽化していた分娩台も新しいものに交換しました。

ロシナンテスは、2021年にザンビアの中央州チサンバ郡ムワプラ地域に1棟目のマザーシェルターを建設しました。この建設後、施設での分娩率が大きく改善され地域により影響を生んでいることから、チサンバ郡の別の地域で新たなマザーシェルターの建設をすすめてきました。

出産をサポートするマザーシェルター
チサンバ郡にある診療所は自宅から遠く、宿泊できるスペースもほとんどありません。そのため、妊婦さんは出産予定日が近づくと、歩いて診療所に向かう必要があります。その結果、自宅へ出産したり、診療所に向かう途中で出産したりするケースが多くみられます。医療施設以外での出産はリスクが大きく、母子ともに危険な状態にさらされます。

2棟目の建設地であるチコンゴメ地域では、郡内でも自宅出産数が多く、妊婦さんの約6割が診療所で

産前健診に小型エコーを導入、井戸の掘削も



今後期待される効果
チコンゴメ地域では、診療所での出産を避ける妊婦さんが多かったことに加え、他の地域と比べて上位の医療機関への紹介数も非常に多い状況でした。2022年度には、自宅出産数や上位機関への紹介数が増え、地域の医療施設と比べて10倍以上の件



地域の学校の生徒たちも歌や踊りで祝福しました！

確な診断ができるよう、小型エコーを1台導入しました。

今までの診察は、トラウベ聴診器と呼ばれる伝統的な診断器具と触診のみでした。しかしこれだけでは危険なケースの見落としも発生していました。エコーは小型で簡易的なものですが、心音や羊水の量、胎盤の位置、頭や身体の大きさを知ることができます。これにより逆子や危険な兆候を把握することができ、万が一の場合も上位の病院を紹介するなど適切な対応をとることができます。

このエコーはパソコンやタブレットなどにつなぎ、専用のアプリをダウンロードするだけで使用できるシンプルなものです。すでに診療所のスタッフ



式典には地域の首長や国会議員のほか、多くの住民が集まりました

遠回り

【第32号】
認定NPO法人ロシナンテス 発行
〒802-0082
北九州市小倉北区古船場町1-35
北九州市立商工貿易会館 7F
TEL:093-521-6470
E-Mail:info@rocinantes.org
特定非営利活動法人ロシナンテス
ROCINANTES

- スーダンだより 事業地のいま………2面
- ザンビアだより 結核事業アップデート…3面
- ザンビアだより ザンビア駐在コラム ……4面
- 雲外蒼天/日々ツラツラ日記……5面
- 国内イベント情報 イベントレポート……6面
- 国内ニュース………7面
- 事務局からのお知らせ…8面



診療所スタッフへのエコー研修の様子

数に達していました。今後、マザーシェルターが妊婦さんに認知され活用が進むことで、以下のような効果を見込んでいます。

- 自宅出産、路上出産の減少
- 産前健診、産後健診の受診率の増加
- 施設出産数の増加

事務局だより
ザンビア駐在員の田中です。日本ではあまり報道されていませんが、昨年7月から始まった世界規模のエルニーニョ現象の影響で、南部アフリカでは深刻な雨不足と食糧危機が起きています。今年の2月29日には、ザンビア政府が非常事態宣言を出しており、4月時点で660万人に支援が必要と報告されています。

干ばつの影響は首都ルサカも例外ではありません。雨不足による停電が続いています。計画停電が続いており、9月には2日に1回3時間程度しか電気がないこともありました。

電気コロをガスに代える、冷蔵庫が使えないため食料を少しずつ買うなど生活スタイルを変えました。家に帰っても電気がないため、パソコンや携帯の充電には気を遣います。もうすぐ雨季がやってきますが、今年こそは大量の雨が降ることを願うばかりです。

私たちNPO法人ロシナンテスの名前は、小説「ドンキホーテ」に出てくるドンキホーテが乗る瘦せ馬のロシナンテに由来しています。「私たち一人一人は瘦せ馬ロシナンテのように無力かもしれないが、ロシナンテが集まり、ロシナンテになれば、きっと何かできるはずだ！」と考え、「ロシナンテス」と名付けました。

今後これを信念として一歩一歩進んでいきたいと考えておりますので、皆さまのご支援をよろしく願ひ致します。

ロシナンテス 応援企業

内科・外科・消化器内科・緩和ケア内科

医療法人 明気会 岩本クリニック
理事長 岩本拓也
北九州市小倉南区中興一丁目20-50
TEL 093-472-1281
FAX 093-472-6712

がんばればロシナンテス!

税理士法人
小城会計事務所
北海道旭川市東光8条1丁目1-1
TEL.0166-31-2313

内科/消化器内科/リウマチ科
柏木内科医院
院長 柏木 陽一郎
福岡県北九州市小倉北区片野2-21-10
TEL 093-921-7943
http://www.kashiwagi-naika.com/

ロシナンテスのスタッフを応援します!!
日常の事業活動の利益をNPO活動の篤志へ繋げたい
時計宝飾・古物売買
株式会社 ブランドリーネ
代表取締役 青山晃一
〒276-0046
千葉県八千代市大和田新田355-16-103
TEL.047-450-5720
yachiyogae-daikoku.com
https://shop.e-daikoku.com/info/sport/detail?code=000000239

遺贈寄付パンフレットが新しくなります

近年、「法定相続人がいない」「社会への恩返しをしたい」など様々な理由で、NPO法人や公益法人などに、遺産を寄付したいと考えている人が増えています。ロシナンテスでも、ご自身の財産や相続された財産を、有効活用したいとお考えの皆さまのお手伝いをさせていただいています。

この度、遺贈寄付に関するパンフレットをリニューアルいたします。遺贈について詳しくない方にも手に取っていただけるよう、具体的な事例もご紹介しながら、基礎や手続きの流れ、ロシナンテスがサポートできることをより分かりやすくご案内しています。

新パンフレットは2025年1月ごろに完成予定です。本資料をご希望の方は、フォームからお申し込みいただくか、事務局までお気軽にお問い合わせください。(発送は2025年1月以降となります)

お問い合わせやEメールでも受け付けております。

「いつも気にかけています」スーダンの人々へのメッセージ

スーダンは現在も混乱の最中にあり、多くの人が村落部への疎開や国外避難をしています。ロシナンテスの現地スタッフも、親戚を頼り村落部に移動したり、長く厳しい道のりを越えてエジプトへ逃れたりして安全を確保している状況です。厳しい状況にあるにもかかわらず、日本でスーダンの紛争が話題にのぼることはほとんどありません。ロシナンテスでは、「忘れられた紛争」にしないため、スーダンの人々への連帯の気持ちを届けるために、4月に皆さまからメッセージを募集しました。ご支援者の皆さまや、スーダン情勢に関するイベントにご参加くださった

大きくメッセージをご覧になりたい方はこちら(PDFが開きます)

切手やはがきのご寄付をありがとうございました

前回の「遠回り31号」で、切手や書き損じはがきなどのご寄付の呼びかけを行いました。その結果、9月末時点で450通以上の封筒が届けられ、多くの皆さまからご支援をいただくことができました。心から感謝申し上げます。

6月13日、14日には、ボランティアの皆さまの協力を得て、集まった切手やはがき、金券類を種類別に分ける作業を行いました。これらは換金のうえ、ロシナンテスのアフリカでの支援活動に大切に使用させていただきます。お送りいただいた皆さま、ボランティアにご協力いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

衣装ケース3箱がすくいっぱいになりました!

日本からスーダンの人々へのメッセージ

スーダンの人々へのメッセージを募集しました。ご支援者の皆さまや、スーダン情勢に関するイベントにご参加くださった

領収書の年一回発送についてのお知らせ

右記の対象者の方には、一年分のご寄付(1~12月受領分)をまとめて記載した領収書を翌年1月に発送しております。2024年分は、2025年1月末までに発送予定です。予定日を過ぎて届かない場合は、ロシナンテスまでご連絡ください。

対象者

- 毎月ご支援をいただいている方(クレジットカード・口座振替)、年一回発送をご希望の方
- ※年1回発送対象以外のご寄付につきましては、ロシナンテスが受領した日の翌月までに領収書を発送しております。届いていない場合やその他(紛失や破損など)についてはロシナンテスまでご相談ください。

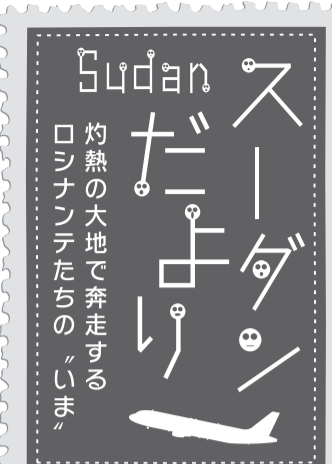
新しくロシナンテになったスタッフのご紹介

娘と一緒に、さまざまなボランティア活動をしていく中で、ロシナンテに出会いました。「私たちは何をすべきなのだろうか」と考え、応募いたしました。微力ではございますが、少しでも皆さまのお役に立てればと思います。宜しくお願いいたします。

中学生の頃に中村哲さんの活動を知り、国際協力に興味を持ちました。ロシナンテではどのようにしてアフリカに医療を届けているのか知りたいと思い、インターンに参加しました。ロシナンテをより多くの方に知っていただけるように頑張りたいと思います。

インターン 山下 麻衣子

インターン 高岡 和世



スーダン軍事衝突から1年7か月 深まる人道危機

スーダンで国軍と準軍事組織「即応支援部隊(RSF)」による軍事衝突が発生してから、1年7か月が経過しました。いまだ収束の目処は立たず、人口5千万人のうち、1千万人以上の人々が国内で避難生活を送る深刻な人道危機が続いています。しかし国際社会のスーダンに対する関心は薄れ、悲しいことに「忘れられた紛争」とも言われています。

当初、国軍が圧倒的優位に立ち戦間は短期間で終結すると考えられていました。しかし、予想に反してRSFの戦闘力が高く、首都ハルツームやダルフル地域を中心に各地で侵攻を行い勢力を伸ばしてきました。これまで、近隣諸国やアメリカ、国際機関などが何度も仲介努力を行っていますが、停戦協議は実現していません。今年8月にアメリカが主導する形でRSFが開催された協議でも、RSFの代表団が出席したものの、国軍側のブルン将軍は「RSFを倒すためならば今後100年戦う」と宣言し出席しませんでした。

長期化する戦間は深刻な食糧危機を招いています。8月、40万人

以上が避難民として暮らす北ダフル州のザムザム・キャンプで、飢餓の最も重い分類である「飢きん」の発生が確認されたことが、国連やNGO、研究者などで構成する委員会により発表されました。スーダン人口の2人に1人が飢餓に直面し、ザムザムのほかにも13の地域が飢きんの瀬戸際にあることから、国際社会からの一刻も早い支援が求められています。

また6月以降、スーダンでは雨季が始まり、大雨と洪水が続いています。国連の報告によると、9月末までに18州のうち15州、70の地域が影響を受け、17万人以上が避難を余儀なくされました。10月に入り雨季は収束しつつありますが、影響を受けた地域は食糧不足に加え二重の打撃を受けています。

ガダーレフ州の村落部にも他の地域からの避難民が流入しています。彼らには家も公的支援もないため、地域住民がテントや一時的な住居を提供しています。避難民は私たちに頼っているため、村の資源に負担がかかっています。

物価は内戦前の10倍で、物流に関する支援も受けられていません。飢えを避けるために、農産物の収穫期に期待しています。また、洪水で農業に影響が出ており、家屋にも被害が出ています。地域によっては「コレラ」やマラリアが流行しています。



北コルドファン州 オンムサママー村 地域のリーダー アリさん

暮らしはどのように変わりましたか？

内戦によって開発計画は停止し、住民は戦闘による暴動や犯罪行為を恐れています。私たちの地域にも避難民が流入してきて商品不足が深刻化しています。戦闘や洪水の影響で道路の閉鎖や損傷が起きており、商品の運搬が難しくなっています。物価は2倍以上上昇しました。経済は不安定で、失業者が増えています。住民は飢えを避けるため、農作物に頼っています。



ガダーレフ州 シェリフ・ハサバラ村 村長 ハサンさん

暮らしはどのように変わりましたか？

ガダーレフ州の村落部にも他の地域からの避難民が流入しています。彼らには家も公的支援もないため、地域住民がテントや一時的な住居を提供しています。避難民は私たちに頼っているため、村の資源に負担がかかっています。

物価は内戦前の10倍で、物流に関する支援も受けられていません。飢えを避けるために、農産物の収穫期に期待しています。また、洪水で農業に影響が出ており、家屋にも被害が出ています。地域によっては「コレラ」やマラリアが流行しています。

ロシナンテスが支援した学校や給水所は どうなっていますか？

残念ながら、緊急事態のため学校は閉鎖されています。州都オベイドの学校が襲撃される事件があり、安全確保ができないため再開の見通しは立っていません。建物自体はきれいに保たれています。給水施設も状態よく機能していますが、避難民の流入で需要が増加し、古い給水施設の給水量が減っているため、負荷がかかっています。

ロシナンテスが支援した給水所や診療所は どうなっていますか？

給水所も診療所も問題なく機能しています。診療所には避難してきた内科医がおり、スタッフも引き続き働いています。個人的な努力によって薬も入手できており、検査室、薬局も機能しています。ただタイヤとバッテリーに問題があり救急車は動いていません。

「ロシナンテスの事業地はいま」

ロシナンテスの事業地の現状について、現地スタッフを介して村の人々から情報を得ることができました。どちらの地域も戦闘による

「リバーナイル州アトバラで緊急支援」

直接的被害はないものの、経済や物流、教育などにおいて間接的な影響を受けていることがわかりました。

軍事衝突発生以降、多くの人々が住んでいた場所を追われ、地方都市に避難しています。そのうちのひとつ、スーダン北東部にある都市アトバラで、避難所の衛生環境を改善するプロジェクトを行いました。駐在員のスーダンへの再入国が叶わない中、現地スタッフをはじめさまざまな方の協力を得て、遠隔での支援活動を実施することができました。

国内避難民は学校や病院などの公共施設を避難所として利用しています。しかし多くの施設ではトイレや手洗い場といった衛生設備が整っておらず、感染症拡大などの健康被害が懸念されています。

この避難所は都市の中心地に位置し、避難してきた人々で人口密度がかなり高くなっていました。しかし、ほとんどのトイレが使用できない状態で、機能しているトイレも不衛生なため、野外での排泄を選ぶ人もいました。

そこでロシナンテスは4月から6月にかけて、3つの避難所でトイレの改修を行いました。トイレの改修により野外排泄をする人の数が大幅に減っていると報告を受けています。また施設の給水機能を改善するため、水タンクの改修やパイプ、ポンプの補修、手洗い場や洗濯場の整備も実施しています。



エルシロール・アルサフラウィ 避難所で改修された屋外トイレ



整備された洗濯場



アルワハダ・ボーイズシェルターに設置された水タンク

- 【活動地】スーダン共和国リバーナイル州アトバラ
【受益者】活動地にある左記施設の避難民
- エルシロール・アルサフラウィ避難所／約1,080人
 - アルワハダ・ガールズシェルター／約990人
 - アルワハダ・ボーイズシェルター／約590人



ポータブルX線装置を増設 結核の診断体制を強化

ザンビアでは、年間約5・9万人もの人々が結核に感染しており、主要な死亡原因の1つになっています。結核の感染拡大を防ぎ、治療を成功させるには早期発見が重要です。結核の診断には喀痰検査や胸部X線検査が必要ですが、事業地である中央州チサンバ郡とチボンボ郡ではX線装置が不足しており、これが診断の遅れにつながっています。

この状況を改善するため、ロシナンテスは、富士フィルム株式会社との協力を得て、2023年5月よりポータブルX線装置1台を4つの医療施設で共有する試験事業を開始しました。X線装置を各施設間で移動させることで、地域住民が近くの医療機関でX線検査を受けられるようにし、結核の早期診断につなげることを目指しています。



ポータブルX線装置による検査の様子



患者にX線検査画像を見せる医師

1人に結核の疑いがあり、最終的に144人が結核と診断されました。特に、他の検査では結核と診断されず、X線検査により発見された患者さんは77名もいました。これにより、この事業が結核患者の早期発見に大きく貢献していることが確認されました。診断されたすべての患者さんは治療を開始しています。残念ながら亡くなった方もいましたが、144名中106名が完治したと報告を受けています。

X線装置を増やし 診断体制を強化

事業開始前、患者さんはX線検査を受けるために都市部まで行く必要がありました。この事業により、居住地近くの医療施設で検査を受けられるようになりました。推定で患者の移動にかかる費用を約270万円削減でき、長時間の移動による経済的負担も大きく軽減できたと考えられます。



X線検査を行っているリテタ郡病院の技師さんと

結核検査に関わる 医療スタッフの声



リテタ郡病院の看護士 ムタレさん

ロシナンテスは素晴らしい活動をしています。私たちの病院では、かつて古いX線装置を使用していましたが、故障して動かなくなりました。稼働していた頃でも、画像が不明瞭で診断が難しいことがあり、その結果、治療の開始が遅れ、患者さんの命が危険にさらされることもありました。

また、経済的な理由や家庭の事情で、遠方の医療施設まで移動することができない患者さんも多くいます。この事業は、こうした状況にある患者さんに正確な診断を提供することができています。ロシナンテスのおかげで、医療へのアクセスが大幅に改善され、多くの命を救うことができています。

母子情報のデジタル管理 利用拡大に向けたニーズ調査を実施

ロシナンテスは、2023年9月からスマートフォンを使った母子情報のデジタル管理を試験的に導入しています。専用アプリ「SPAQ」をインストールすることで、スマホで産前健診から出産、産後健診までの情報を簡単に記録することができるようになりました。エコも利用でき、施設外での健診や遠隔地での集団健診にも使用することができ



8月にはコミュニティでの聞き取り調査を実施

この取り組みは「SPAQ」を提供する株式会社SOIKや九州大学などと協力して行われています。ロシナンテスの事業地で効果を検証し、ザンビア国内での将来的な事業展開の可能性を模索しています。ロシナンテスは現地でのデータ収集分析などを担当し、これまでに中央州チサンバ郡の4つの医療施設で母子情報を収集してきました。また医療施設スタッフや保健ボランティアへの使用方法の指導も行いました。

今年4月からはJICAの支援を受け、利用拡大に向けてニーズ調査が行われました。紙媒体で管理されている医療データを分析し、洗い出された地域の課題がデジタル管理でどのように改善できるかを検討しました。また持続可能な仕組みを検討するため、医療保険や地方政府資金の制度も調査しました。

調査を進める中で、医療施設に報告される数値や集計方法に正確な部分があり、地域の実態が正しく反映されていない可能性が浮かび上がりました。そこで、さらに医療施設を訪問し、医療関係者や村長への聞き取り調査を行い、実態を詳しく確認しました。



保健ボランティアに向けた使用方法の研修の様子

調査結果の精査と並行して、現場では作業効率の改善に取り組んでいます。入力項目が多く作業に時間がかかるため、機能を簡素化することや、医療スタッフが傾向をより簡単に確認できる機能を追加することなど、現場の要望に応じた改良を進めています。

雲 外 蒼 天

「大相続時代」の到来 遺贈寄付は社会を変える力になるか

「大相続時代」という言葉を聞いたことがありますか。来年2025年に、終戦直後の第一次ベビーブームに生まれた「団塊の世代」がすべて75歳を越えることとなります。これにより、近い将来、このシニア世代が保有する資産が相続によって次の世代に引き継がれ、大規模な資産移動が起こると予測されています。

こうした社会背景の中で、「遺贈寄付」に注目が集まっています。遺贈寄付とは、社会貢献活動に役立てることを目的として、遺言によって遺産の一部またはすべてを、公益法人、NPO法人などの団体に譲渡することをいいます。NHKの調査によると、遺贈寄付件数は年々増加しており、令和3年には973件、総額約27.8億円にのぼりました。また日本財団遺贈寄付サポートセンターによる調査では、60〜70代の2割以上が遺贈や寄付に関心を持っていることがわかっています。

では、なぜ遺贈寄付への関心が高まっているのでしょうか？ その背景には、相続に対する価値観が変化していることが挙げられます。日本では、少子高齢化が世界でも類を見ないスピードで進んでおり、「おひとりさま」

や子供のいない夫婦世帯が増加しています。このような家族構成の変化は、相続への考え方も変容をもたらしています。家計の金融行動に関する世論調査（令和5年）によると、2人以上の世帯で「子どもに財産を遺したい」と考える世帯は45.4%で、20年前に比べて19%も減少をしています。従来は「家族にすべての財産を相続させる」という考え方が一般的でしたが、近年では「財産を社会・公共に役立てたい」という価値観が広がり、相続人以外へ財産を託すことを考える人が増えているのです。

2 老後の生活資金を心配せずに寄付できる
遺贈寄付は、自分の死後に残った財産から行うため、生前の生活資金には影響しません。たとえ遺贈寄付の遺言書を作成していても、死亡時に遺贈するとしていた財産がなくなっていた場合、寄付の義務は発生しません。そのため老後のお金を心配することなく安心して日常生活を楽しむことができます。

3 税金の優遇措置が受けられる
相続財産が基礎控除額（3千万円＋600万円×法定相続人の数）を超えると相続税が課税されます。しかし、遺贈寄付した財産には相続税がかからないため、節税効果があります。また、寄付先が国や地方公共団体、特定の公益法人、認定NPO法人などである場合、相続人が行う「準確定申告」の際に、遺贈した金額を寄付金控除の対象とすることができ、所得税の節税にもつながります。

遺贈寄付の課題、普及のためには
このように遺贈寄付には様々な特長がある一方で、その普及にはいくつかの課題も残されています。
日本財団遺贈寄付サポートセンターの調査によると、遺贈に際して懸念する点として、①必要な手続きがわからない、②寄付先が自分の意思に沿って使ってくれるか不安、③どこに相談したらいいかわからない、といった声が多く寄せられています。遺贈寄付には遺言書の作成が必要ですが、適切な相談先がわからないことが1つのハードルとなっています。また寄付先団体選びに関する不安も大きく、遺贈寄付を躊躇する要因となっているようです。

現地スタッフのグリフィンとニユマが事業について教えてくれました



残りの期間でも引き続き生活を楽しまつ、ロシナンテスが現地の診療所や病院とどのように交渉を重ね、状況を改善していくのか事業成果を測る指標を改善していくのかを見て学んでいきたいと思えます。

日タツラツラ日記 ⑬

ザンビアの人々は勤勉で真面目！

こんにちは、ザンビア事務所インターンの犬矢千瑛です。約1か月半ザンビアでインターンとして活動しております。到着してから約1週間とまだ日は浅いですが、現地での生活について2つご紹介いたします。

まずはインフラについてです。ザンビアでは停電がひどく、今年は例年になく異常事態なようです。事業先との話し合いの中でも「because of battery, we can't do...」という言葉をしばしば耳にするほど事業に影響を与えています。もちろん私にとっても初めての経験で不便なこともありますが、新しい刺激に毎日ワクワクしながら過ごしています。

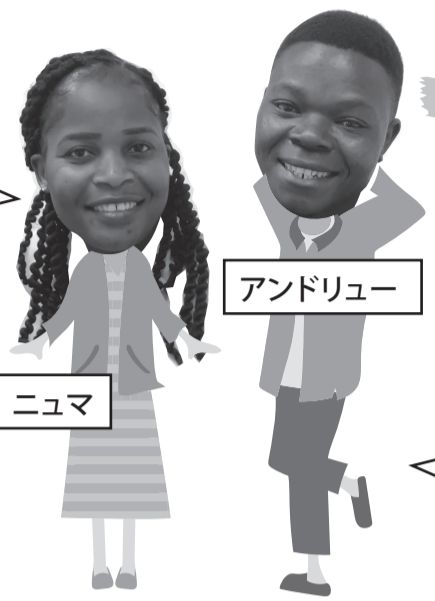
次にザンビア人の人柄についてです。こちらでインターンして最も衝撃を受けたことは、現地スタッフの皆さんが出勤時刻には必ず全員揃っていることです。以前私はインドやフィリピンなどで活動したことがありましたが、1〜2時間遅れてくることは当たり前でした。ザンビア人スタッフの働く姿勢にはとても感動しました。聞くところによるとザンビアはアフリカの中でも特に勤勉で真面目な方が多いそうです。さらに、現地スタッフの皆さんは極めて温厚かつ穏やかなので、非常に居心地の良い職場で活動ができることに感謝しています。

5月よりザンビア事務所で働いている2名のスタッフです。 ザンビア事業部の新しい仲間をご紹介します！



ザンビア事務所のメンバーで集合写真を撮りました！

フィールド・コーディネーターのニユマです。母子保健のSPAQプロジェクト（スマホアプリを用いた産前産後健診事業）を担当しています。看護師として働いておりました。子どもが2人いて、お休みの日は家族と一緒に過ごすのが好きです。料理することや伝統的なダンスを踊ることが好きです。好きな食べ物はエビやカニなどのシーフード。日本の皆さんが、ザンビアのためにしてくださっているすべてのことに心から感謝しています。



ドライバーのアンドリユーです。全員を安全に送り届けることが、私の仕事です。ロシナンテスは、ザンビアの母親たちのためにマザーシェルダー事業を行っています。このような意義ある活動に共感し、入職しました。趣味は読書やキーボード演奏などです。好きな食べ物は地元の料理、シマ（白トウモロコシの粉をねった主食）です。皆さま、ご支援いただき本当にありがとうございます。

ザンビアでの停電生活

ザンビアでは、電力不足が深刻化しており、3月から計画停電が実施されています。当初は1日8時間の停電でしたが、9月になると21時間にのび、1日大半が電気のない生活になりました。停電の時間帯も不規則で、昼間に停電することあれば、夜に行われることもあります。この停電の原因は、過去数十年で最悪といわれる干ばつです。ザンビアの発電量の80%以上が水力発電であるため、雨が降らないと水が不足し、電力供給が追いつかなくなってしまうのです。

ザンビア事務所の3名に停電生活の様子を聞いてみました。



停電になったときには自分なりに「停電生活」を楽しんでいます

ザンビア事業部
元インターン（2024年2月～6月まで活動）
佐々木 妙子

大好きな藤井風さんの音楽を聴きながらキャンドルのあかりとともに、リラックスしています。また、電気がなくても、味噌汁をキャンドルの火で作る方法を編み出しました！なるべくたくさんゆで卵を作っておいて、停電中お腹がすいたら塩をかけて美味しくいただいています。

読書するのめんど苦勞です



駐在員 佐藤 良

ろうそくの明かりは暗すぎて、二宮金次郎のように本が読めないと実感しました。停電生活になり、ヘッドライトや懐中電灯を使いながら、本を読んでいます。また、停電で冷蔵庫が使えず、食料の保存が難しいです。ツナ缶のメニューがこういう時は増えますね。

いちばん困っているのは「水」



フィールド・コーディネーター
グリフィン

水は電力で汲み上げるので、停電の時には断水も発生します。電気は夜に供給されることが多く、夜中に水を汲み、料理をしたり、アイロンをかけたり、お風呂に入ったりしています。携帯電話の充電もその時にします。電力の代わりに炭を買ったりもするので生活費の支出が増えました。停電生活になって、ライフスタイルが大きく変わり大変です。

停電中のザンビア事務所の仕事はどうしているの？



ザンビアのロシナンテス事務所があるビルには、ディーゼルエンジンで動かす発電機があります。ディーゼルは1リットル180円以上するためとても高価です。しかし、停電時の電力の代わりとして使うことで何とか凌いでいます。

【トークテマータ】

- TICAD(アフリカ開発会議)設立の背景
 - 新しい開発援助の理念
- 経済の発展＝国の発展ではない
 - 分断しない世界を作る
- 心と心の協力
 - 「福田ドクトリン」からTICADへ
- 日本の旗が立たない経済協力は意味がない?
 - 本当の意味での開発協力とは
- 開発にはメリットが必要?
 - 日本企業のアフリカ進出を考える
- 中国の存在感
 - アフリカ開発や留学 日本との考え方の違い
- 東南アジアの国々の協力
 - 一方通行でないパートナーシップの形
- アフリカの発言力を高められないのはなぜか
 - 模擬国連を通して感じたこと
- アフリカでの医療経験は学びになるのか
 - 経験と学びの違いを意識する
- スウェーデンの大使がTICADに注目
 - カンダタ的精神にならないことが大切
- 若い皆さまへのメッセージ
 - アボロジアンとユートピアンの間でどう苦悩するか～アフタートーク～
- グローバルはどうひとつになれるのか
- コロナアリスムの害毒
- 戦争をしなくても国民が幸せになるために必要なことは
- 日本で何かを変えるためには

元国際司法裁判所所長である小和田恒さんをお迎えして、「日本とアフリカの将来を考える座談会」を開催しました。

小和田恒さんは40年近くにわたって外交官として活躍され、TICAD(アフリカ開発会議)の立ち上げに尽力、その後国際司法裁判所所長などを歴任されました。経済の発展、国の発展ではない「パートナーシップ」など、現在の国際協力における重要な概念は、小和田さんが日本に持ち込んだと言っても過言ではありません。



小和田恒さんを囲む座談会を行いました

座談会では、理事長の川原がファシリテーターを務め、国際協力に関心を持つ高校生、大学生、大学院生にもゲストとしてご参加いただきました。開発にはメリットが必要か? 「中国と日本のアフリカ進出の違いとは?」「アフリカの発言力を高めるためには?」などの学生からの投げかけに対して、小和田さんは非常に示唆に富むお話をしてくださいました。学生との対話をぜひご視聴ください。

撮影終了後も話題は尽きず、学生さんたちは熱心に耳を傾けていました。



ダイジェスト版はこちら(6分)
<https://youtu.be/5w21KdGA2U>



本編はこちら(1時間23分)
<https://youtu.be/PEJaNSEdPlc>

能登半島地震で珠洲市で活動する医療ボランティア



能登半島地震で珠洲市で活動する医療ボランティア

能登半島で豪雨被害 珠洲市に再びボランティアを派遣

9月下旬、震災からの復興途上にあった珠洲市で豪雨による洪水が発生しました。これを受け、ロシナンテスは、医療支援活動を行う

ロシナンテスは、今年1月の能登半島地震でもHUMAに協力し、ボランティアの派遣調整や車両調達などの後方支援を担ってきました。今回支援した高齢者介護施設では、洪水被害で職員が不足しており運営が困難になっていました。ロシナンテスは、現地で活動するボランティアを募集し、10月に1名の看護師を派遣しています。

ロシナンテスの主な活動地域はアフリカです。しかし日本国内で災害が発生した際には、このような協力関係を築きながら、できる限りのサポートを提供していきたいと考えています。



2024年度も「アフリカから学ぶ国際教育プロジェクト」が、北九州市のふるさと納税を活用した協働のまちづくり推進事業として採択されました。昨年度に続き2年目の実施となります。

このプロジェクトは、ロシナンテスと学校が連携し北九州市の子どもたちに、グローバルな視野を育むための学びの場を提供するものです。

北九州市内の小中学校およそ20校で、アフリカの生活や文化、

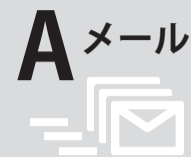
今年度も「アフリカから学ぶ国際教育プロジェクト」がスタート

NPOの活動を教材とした出前授業を実施します。これにより、子どもたちの国際理解を深め、自らの夢や将来を広い視点で考えるきっかけを提供していきます。また授業で得た学びを深めるため、来年3月には児童・生徒らが参加するプロジェクト報告会も開催予定です。

※本プロジェクトは、北九州市の企業版ふるさと納税からの補助金を受けて実施します。

参加費無料 イベント・ボランティア ぜひご参加ください

お申込フォームの利用が難しい方は、メールもしくはお電話でご連絡ください。



Aメール
宛先 / info@rocinantes.org
件名 / 活動報告会申込 もしくは ボランティア申込
メール本文に以下の項目をご記載をお願いいたします。
・参加希望の日付・お名前・メールアドレス・事前に聞きたいことなど



Bお電話
認定NPO法人ロシナンテス
TEL:093-521-6470
(受付:平日10時~17時)

2025年1月13日(月・祝)【オンライン】

【ご支援者様限定】
皆さまのご支援でできたこと～2024年を振り返って

この度、日頃よりご支援いただいている皆様への感謝の気持ちを直接お伝えたく、ご支援者の皆さま限定の活動報告会を開催いたします。

2024年は、スーダンへの再入国が困難な状況の中、遠隔で緊急支援活動を実施することができました。一方ザンビアでは、2棟目のマザーシェルター建設や、結核事業の診断体制の強化など、着実に事業を進めることができました。

当日は、ザンビア駐在員からの2024年の活動報告に加え、12月にスーダンに渡航を予定している理事長川原より、スーダンの現状や今後の展望についても、たっぷりお話ししたいと思います。

日時 ■ 2025年1月13日(月・祝) 16:00開始 / 17:30終了
対象 ■ ロシナンテスのご支援者様
場所 ■ オンライン(ウェブ会議ツールZoomを使用予定)
申込URL ■ <https://www.rocinantes.org/news/event/?no=222>



2025年1月25日(土)【北九州】

事務作業ボランティア

皆さまが送ってくださった切手・はがきの仕分けや、書類の封入作業などをお手伝いいただけるボランティアさんを募集しています。作業は簡単で、どなたでもご参加可能です。

作業の合間に、ロシナンテスの活動についてもご紹介できればと思います。地味な作業が苦にならない方、ぜひご協力をお願いいたします。

日時 ■ 2025年1月25日(土) 15:00開始 / 17:00終了
場所 ■ 福岡県北九州市小倉北区古船場町1-35 北九州市立商工貿易会館 701会議室
定員 ■ 10名程度
申込URL ■ <https://www.rocinantes.org/news/information/?no=223>



イベントレポート

EVENT REPORT

《スーダン人のゼインさんによるスーダン情勢報告会を行いました》

スーダンの首都ハルツームで、2023年4月に軍事衝突が始まりました。発生から約1年後の2024年5月、ドバイで避難生活を送るゼインさんが来日。福岡、大坂、東京、北海道の4都市で情勢報告会を開催しました。ゼインさんにこの1年間の様子をお伺いしました。

軍事衝突が発生、スーダンの人々の優しさ

ゼインさんの経営する店舗は、ハルツームで勃発した戦闘地域のど真ん中にありました。店のスタッフとともに、急いで約10キロ北へ走って逃げたそうです。避難する道中では、全く知らない人の家に4日間居候しました。心優しく「どうぞ」と食事を出してくれ、大変良くしてくれました。

居候先から実家へ向かうことを決意

ゼインさんの実家は、スーダンの第二の都市、ワドメダニにあります。ハルツームの南に位置していますが、ハルツーム市内は危険で通ることができませんでした。そのため、大きく迂回して実家を目指すことになりました。2泊野宿しながら徒歩で移動し、やっとの思いでたどり着きました。実家に着いた直後ゼインさんは、幼い頃から強いイメージを抱いていたお父さんが涙を流す姿を初めて見たそうです。



ワドメダニでは、家に入りきらないためテントで生活

お腹いっぱいわけがないのに...

スーダンには、アシーダという食べ物があります。通常スープやお肉などとともに食べるものですが、一日に一食、食べられるかどうかの厳しい生活でこれしか食べるものがありました。ある日、お父さんは空腹を我慢してゼインさんに譲ろうと少量のアシーダを「お腹いっぱい」と言って食べませんでした。厳格なお父さんの優しさに触れ胸がいっぱいになったと話してくれました。



アシーダ(ソルガムという穀物をお湯でねったもの)



2023年12月、RSFがワドメダニにやってきた

RSFが首都ハルツームを占拠したのち、12月にワドメダニにやってきました。ここで暮らすことは難しいと考え、ゼインさんは家族の安全のためにウガンダへ避難することを決めました。その後ゼインさんは単独ドバイへ居を移し、働きながらウガンダにいる家族に仕送りしているそうです。

一日も早くこの内戦が終結し、スーダンに平和な日常が戻ってくることを願ってやみません。ロシナンテスは、これからもスーダンの人々に寄り添い、できることを模索してまいります。ご支援者の皆さまも、引き続きスーダンの現状にお心をお寄せいただけましたら幸いです。



【ゼインさんプロフィール】ロシナンテスがかつて行っていたスーダン少年サッカーアカデミーの生徒。2011年東日本大震災の復興支援の一環で、宮城県名取市閑上へスーダン、南スーダンの子ども22名を招聘した際に初めて来日。これを機に日本に強い関心を持ち、翌年九州国際大学付属高等学校に3年間留学した。その後ハルツーム大学に入学。卒業後はハルツームにてスポーツ店を経営。しかし、2023年4月に始まった内戦によりお店は破壊され、現在は国外への避難を余儀なくされている。

今だからこそ読んでほしい

『行くぞ！ロシナンテス』

「行くぞ！ロシナンテス 日本発 国際医療NGOの挑戦」
ご購入はこちら
<https://www.yamakawa.co.jp/product/15078>



2015年に理事長川原が書き下ろした本書には、スーダンで活動を始めた経緯や「医」を届ける活動のこれまでの道のり、そして活動を通して出会った人々との交流が描かれています。スーダンでの軍事衝突発生から1年7か月。ぜひこの機会にお読みいただき、今も内戦下で困難に直面しているスーダンの人々に想いを寄せていただけたらうれしいです。